

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																											
<専>YIC京都工科大学校	平成25年3月25日	杉山 征人	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4044																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																										
工業	工業専門課程	一級自動車整備科	—	平成22年文部科学大臣告示第152号																										
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かな自動車業界における自動車整備のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。</p> <p>具体的には、即戦力だけでなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門技術を十分持ちながら、常に進化し続ける自動車に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教養することを目的とする。</p> <p>自動車整備士は自動車分解整備事業の認証を受けた事業所において必要とされる資格であり、本校のような自動車整備士養成施設の卒業生が必要である。一級自動車整備科においては、一級自動車整備士国家資格の取得を第一の目標とし、高度な故障診断や高い整備技術に加えて指導方法や顧客管理、マネジメントについても教授する。さらに、危険物取扱者、損害保険募集人資格、溶接技能、職業訓練指導員等の資格も併せて取得させることにより、幅広い業務に対応でき、さらに良識ある職業人として豊かな人間性を備えたる即戦力となり得る人材を養成する。</p>																													
認定年月日	平成27年2月25日																													
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																								
4年	昼間	4,544時間	1,298時間	3,246時間																										
学生総定員	学生実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
100人	57人	0人	11人	6人	17人																									
学期制度	■1学期：4月1日～9月30日 ■2学期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 出席率90%以上、ペーパーテスト及び実技 成績：優(100-90) 良(89-70) 可(69-60) 不可(59-0)																										
長期休み	■学年始：4月1日～4月10日 ■夏季：7月25日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月10日 ■学年末：3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率：90%以上 成績：60点以上(100点満点) 学費の完納																										
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等) ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動：有																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 自動車業界 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数 7人 ■就職希望者数 7人 ■就職者数 7人 ■就職率 100% ■卒業生に占める就職者の割合 100% ■その他 ・進学者数：0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級自動車整備士</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>二級二輪自動車整備士</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人資格</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	一級自動車整備士	②	7人	4人	二級ガソリン自動車整備	②	7人	7人	二級ジーゼル自動車整備	②	7人	7人	二級二輪自動車整備士	②	7人	3人	損害保険募集人資格	③	7人	7人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																											
一級自動車整備士	②	7人	4人																											
二級ガソリン自動車整備	②	7人	7人																											
二級ジーゼル自動車整備	②	7人	7人																											
二級二輪自動車整備士	②	7人	3人																											
損害保険募集人資格	③	7人	7人																											
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 3.8% 平成28年4月1日時点において、在学者 53名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者 51名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、金銭的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業についていけない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個々人への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・経済的支援制度(専願出願者で経済的事由(生活保護受給世帯等)により学費減免を希望する者。最大10名 初年度学費より20万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者)太子初年度学費より5万円免除 ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業・見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ・特別就学支援(本校に入学する全ての者に対し、初年度学費を20万円免除) ■専門実践教育訓練給付：給付対象 ・前年度の給付実績者数：なし																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無																													
当該学科のホームページURL	URL: http://www.yic-kyoto.ac.jp/pet/																													

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより商業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。

・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。

・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。

・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
千葉 真治	一般社団法人京都府自動車整備振興会 教育課主任	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	①
金塚 昭	株式会社スズキ自販京都 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
後藤 敬一	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
松井 強介	新和自動車株式会社 取締役統括店長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
森田 直武	いすゞ自動車近畿株式会社 執行役員 経営管理室 室長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
木下 敬朗	株式会社 レオタニモト サービス部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
杉山 征人	〈専〉YIC京都工科大学校 校長		
細田 元一	〈専〉YIC京都工科大学校 副校長		
喜多 好洋	〈専〉YIC京都工科大学校 教務課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数 2回

(開催日時)

第1回 平成29年5月24日 15:30～17:00

第2回 平成29年11月14日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

一級自動車整備士に相応しい人間教育、入社後は指導員や管理職を目指す人材。加えて、二級自動車整備士として入社する者以上に即戦力である事を望む。

具体的には点検整備といった基本作業が確実に出来ること。部品名称やその役割を明確に理解している事。

応酬話法やマネジメント、指導技術や業界研究といった授業内容に加えて点検整備に於いては4年次に基本から再確認を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追い付いていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究(インターンシップ)等積極的に行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業技術講習の科目では、国内外の自動車メーカーの販社(ディーラー)との連携により、最新の車両を持ち込んでいただいで最新の技術や、業界の近況を学習する。また、キャリアデザインの授業では、メーカーの行っている新人研修を学生にも体験させ、就職に必要なスキルを事前に学習する。実務体験実習においては、就職内定先の企業と連携して、合計30日間に渡りインターンシップを実施する。学生は毎日実習レポートを作成し、指導担当者に提出し評価をいただく。学校側教員も週一ペースで、インターンシップ先を巡り、学生の状況を確認する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業技術講習	国内メーカーや海外メーカーの自動車販売会社様の協力により行う技術講習会で、最新技術や業界の近況を知ることのできる授業。	(株)スズキ自販京都、京都三菱自動車販売(株)、(株)京滋マツダ、(株)ホンダベルノ滋賀、いすゞ自動車近畿(株)、大阪スバル(株)(近畿スバルグループ)、近畿日産(株)、トヨタカローラ京都(株)、(株)ファーレン滋賀、ネットトヨタ京都(株)
実務体験実習Ⅰ・Ⅱ	前期と後期にそれぞれ15日間、都合30日間に渡り各学生内定先にてインターンシップを行う。各社と打合せを行い、「点検実習」「故障探求」「総合診断」をバランス良く実作業の中で体験、指導して頂く。週一回担当教員が、各社を巡回し、学生の実習状況を確認する。尚、学生は毎日実習レポートを作成し、指導担当者に提出する。	滋賀トヨタ自動車(株)、滋賀ダイハツ販売(株)、(株)ホンダカーズ、京都スズキ(株)、大阪トヨペット(株)、いすゞ自動車近畿(株)、あいおいニッセイ同和損害調査(株)、京都トヨタ自動車(株)、京都ダイハツ販売(株)、ネットトヨタ中央大阪(株)、(株)シンバ、大阪スバル(株)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

メーカー別研修(各自動車メーカー+整備振興会)
新技術・故障診断技術(全国自動車大学校・整備専門学校協会)

②指導力の修得・向上のための研修等

QCサークル研修(全国自動車大学校・整備専門学校協会)
QUアンケート活用研修(職業教育・キャリア教育財団)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

(2)等に於いて受講してきた研修内容についてを校内にて研修発表を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

私学カウンセリング研究会(京都府立中高協会)、キャリア・サポーター養成講座(職業教育・キャリア教育財団)、インストラクショナルデザイン研修(全国専門学校経営研究会)、アドラー心理学の活用による退学者防止・学級経営術(全国専門学校経営研究会)、中堅教員コーチング研修(職業教育・キャリア教育財団)、新任教員研修(京都府専修学校各種学校協会)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3)教育活動	2 教育の内容
(4)学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	3 教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	5 学生支援
(8)財務	8 財務
(9)法令等の遵守	7 管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・「非常勤講師」と「常勤教員」間の人材育成に対する意識乖離が気になる。
 非常勤講師への指導徹底は今後の課題である。また、教え方に関しては特別講師を招き、教員研修を実施する事により指導方法の標準化を試みている。今年度の取り組みとして教員研修を意欲的に実施し、常勤・非常勤に関わりない教授方針の標準化を目指している。
 ・企業側から「京阪神の学校の中ではYICの学生を是非とも欲しい」と言われる様な卒業生を排出する事が理想ではないか。
 「企業連携→就職→1ヵ月で離職」といった悪循環を繰り返さない為の企業との連携を考えた教育課程を作成し、業界関係者が在学中から学生を予約したくなる様な卒業生を排出する事が理想であると考え。
 これに対して企業が欲しがめる様な人材を育てる為にも、学校が2年間教育し、企業へと送り出すだけでなく、学生を中心として企業と学校が共に学生を育てるスタンスが必要ではないかと考えている。
 高校入学の段階から高校での3年間、専門学校での2年間、卒業後の10年間、合計15年間を企業、専門学校がオーバーラップし、学生を育てあげるスタンスが必要ではないかと考える。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
上川 寿之	一般社団法人京都府自動車整備振興会 専務理事	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	学会
金塚 昭	株式会社スズキ自販京都 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
後藤 敬一	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
松井 強介	新和自動車株式会社 取締役統括店長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
森田 直武	いすゞ自動車近畿株式会社 執行役員 経営管理部 室長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
木下 敬朗	株式会社レオタニモト サービス部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
鳥本 美紀	株式会社レオタニモト	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エンジン構造 I	ガソリン・エンジンに関する基礎知識(エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など)を学習し、理解する。	1前	34	1	○			○			○		
○			エンジン構造 II	ジーゼル・エンジンとは何か、ガソリン・エンジンとの構造や作動の違い、共通点等を学習する。	1後	34	1	○			○			○		
○			シャシ構造 I	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。	1前	34	1	○			○		○			
○			シャシ構造 II	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。	1後	34	1	○			○		○			
○			電気工学 I	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係(計算含む)、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、計器類 冷暖房装置	1前	34	1	○			○		○			
○			電気工学 II	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係(計算含む)、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、計器類、冷暖房装置	1後	34	1	○			○		○			
○			基礎自動車工学 I	自動車とは何か？ 自動車ってどんな部品が付いている？どんな材料できているのか？ これから整備を学ぶ皆さんにぜひ知っておいてほしい基礎知識について解説します。	1前	34	1	○			○			○		
○			基礎自動車工学 II	自動車とは何かについて、前期で履修して頂きました。後期では、もう少し踏み込んで、自動車を構成しているネジや歯車などの“部品の部品”や、ガソリンやオイルなどの性質、それと、車の作動を理解するために必要な、基本的な原理・法則や、その計算方法等について解説します。	1後	34	1	○			○			○		
○			自動車工学	1年生の科目で学んだ基本的な計算問題や基礎工学で学んだ知識を、2級整備士レベルに高める。整備士に求められる図表の読み方や計算問題の理解力を、共に解いていくことで高めていく。最終目標である国家試験合格を目指して実際に出題された当該分野の問題を解くコツを身につける。	2前	34	1	○			○			○		

○		数 学	なぜ整備士が数学をやらねばならないのか。このような疑問を持つ学生は少なくない。本稿ではこの疑問に対し、整備の環境で出会うであろう事例を交えながら問題を一つ一つ解き明かしていくことで、国家試験合格を目指して学習を進めていく。	1 後	34	1	○			○	○							
○		材 料 ・ 製 図	自動車の部品は2万点以上あり、材料には金属・非鉄金属、樹脂、ガラスなどが使用されている。それらの材質、製造方法、用途などを理解することで、整備現場での故障診断などに役立つ。製図については基本的な知識を身につける。	1 後	34	1	○			○								
○		燃 料 油 脂	自動車用燃料として使用されている、ガソリン、軽油、LPGの製造方法、及び性状や規格、環境への影響について講義する。エンジン、その他の構成部品に使用される潤滑剤、及び各種作動油についても講義を進めていくことに加え、各オイル等の交換時期にも関係する自動車メーカーが指定する過酷な使用「シビアコンディション」についても説明出来る様になる。	2 前	34	1	○			○								
○		危 険 物	自動車にとって、欠かすことのできない燃料のガソリン、軽油や潤滑剤のエンジンオイル、ミッションオイルなどは消防法により危険物に指定されています。それらの知識を知ることで安全に取り扱うことが出来るようになる。自動車業界にとっては重要な資格である。	1 前	34	1	○			○								
○		新自動車工学 E	自動車の各装置の電子制御化が進む中、整備技術の内容も大きく変わりつつあり、エンジン関係では、電気回路に加えてハイブリッド車、圧縮天然ガス自動車、筒内噴射式エンジン、コモンレール式噴射システム等について講義する。	3 前	34	1	○			○								
○		新自動車工学 C	自動車の各装置の電子制御化が進む中、整備技術の内容も大きく変わりつつあり、シャシ関係では、電気回路に加えてCVT、車両安定制御装置、SRSエア・バッグ、プリテンショナ・シートベルト等について講義する。	3 後	34	1	○			○								
○		材 料 C A D	自動車には多岐にわたる種類の材料が使用されているが、どのような材料を選ぶかによって製造費用と製造技術に関係してくる。最近の自動車は、自動車の高性能化、経済性の観点から軽量化しつつ、耐久性及び信頼性を向上させることが求められている。この授業では、今なお自動車に多く用いられている鉄鋼を始め、様々な自動車用材料の学習をすると共に、その材料の持つ力学的な計算を含めた材料力学の学習と併せ、設計図面の描き方として二次元CADによる製図の学習も行う。	3 前	34	1	○			○								
○		エンジン整備 I	1年時に学んだガソリン・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解した上で、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。	2 前	34	1	○			○								
○		エンジン整備 II	1年時に学んだディーゼル・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解した上で、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。	2 後	34	1	○			○								
○		シャシ整備 I	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。	2 前	34	1	○			○								
○		シャシ整備 II	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。	2 後	34	1	○			○								

○	機器の構造 取 扱	近年の自動車技術の進歩は著しく、各部装置の機能・性能が高度化するとともに、電子化など技術的にも複雑になっている。このような自動車の整備に対応するためには、最新の機器を使用した点検方法習得する能力が必要である。この授業では、自動車の整備作業に使用する作業機器の構造・作動と取扱いの方法、測定機器の取扱い方法及び自動車の検査に必要な検査用機器の使用方法を学習する。及び自動車整備士に必要な関係法令として、道路運送車両法、審査事務規程に照らし、自動車の検査方法について学習する。	3 前	12	1	○			○			○
	自動車検査法			10		○			○		○	
	自動車関係 法			12		○			○		○	
○	検 査 法	道路運送車両(保安基準)学習	2 後	34	1	○			○			○
○	法 規	道路運送車両法の学習	2 前	34	1	○			○			○
○	業 界 研 究	○近年の自動車技術の進歩は著しく、各部装置の機能・性能が高度化するとともに、電子化など技術的にも複雑になっている。また、自動車業界の世界的なグローバル化に伴い、各自動車メーカとして今後どのような戦略で勝ち残っていけるかが課題である。この授業では、自動車業界に関連する項目を、新聞記事、自動車新聞、及び月刊・自動車工学の中から抜粋し、記事の内容を把握し、及びクラスで発表してもらおう。そうすることで、今後の自動車業界について考えてもらう。○整備主任者技術(法令)研修資料をベースに、各メーカの最新技術、及び最新の保安基準の内容を理解する。	4 前	68	2	○			○		○	△
○	I D 研 究	厚生労働省の下に都道府県知事が発行する「職業訓練指導員(自動車整備科)」資格取得を視野に入れながら指導員として求められるスキル、コンプライアンス等に関して講義する。 また、同学年で実施する指導員実習と連動して進める事により、知識レベルだけでなく指導技術についても身に付けていく。	3 前	34	1	○			○			○
○	工 作 作 業 実 習	各種機械工作機器・作業用工具等の使用方法、取り扱いを習熟させる。	1 前	30	1				○	○		○
○	機 械 加 工 応 用 測 定 実 習	金属加工のうち、手仕上げ加工の作業における基本姿勢及び使用する工具の取扱い方法並びに各種工作機械の安全な使用方法について学習する。また、自動車のシャシ及びボデーの接合に使用されている溶接方法について学習し、金属の性質、溶接熱による金属の歪み発生等についても確認する。金属材料の鉄鋼について、硬さの試験法及び金属組織の検査を行う。電気関係では、サーキット・テストの内部抵抗による測定誤差及びオシロスコープによる波形の読み方について学習する。故障診断に用いる外部診断機の取扱い方法について学習する。	3 前	34	1				○	○		○
○	測 定 作 業 実 習	計測器の基本的な取り扱い及び測定作業とその応用ができるように習熟させる。	1 前	58	2				○	○		○
○	エ ン ジ ン 実 習 I	エンジン実習を行うことで、エンジンに関する基礎知識と技術を習得する。	1 通	176	6				○	○		○
○	エ ン ジ ン 実 習 II	1年時に学んだガソリン・エンジン及び、ディーゼル・エンジンの本体や各装置の基本的な整備技術を理解した上で、より高度な整備技術や、エンジンの点検及び調整方法を身に付ける。	2 通	186	6				○	○		○

○		シャシ実習Ⅰ	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。	1通	176	6				○	○	○		
○		シャシ実習Ⅱ	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。	2通	186	6				○	○	○		
○		電装実習Ⅰ	次の各装置について、学科授業と連動させた内容で構造作動を学習する。 電子・電気関係(計算含む)、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、計器類、冷暖房装置	1通	176	6				○	○	○		
○		電装実習Ⅱ	1年次に修得した基礎知識を土台に応用力を付け、整備技術の幅を広げる。 電気回路の故障診断に活用する診断機器・テスト類の取り扱いが出来る技術を習得させる。	2通	186	6				○	○	○		
○		総合実習Ⅰ	二輪自動車の学習と自動車の日常点検について	1後	88	3				○	○	○		
○		総合実習Ⅱ	1. 溶接が出来るようになる。 2. 自動車定期点検が出来るようになる。	2前	120	4				○	○	○		
○		企業技術講習	国内メーカーや海外メーカーの自動車販売会社様の協力により行う技術講習会で、最新技術や業界の近況を知ることのできる授業 職業実践専門課程認証校としての取り組む授業	1前	40	1	△			○	○	△	○	○
○		高度エンジン整備実習	エンジンの不具合原因の診断に必要な内部理解を深める事を念頭に分解・測定を行い組付・試走を行う。 電子制御式燃料噴射装置、電子点火装置等、エンジン系の電気回路の点検を習得させる。 筒内噴射式エンジン等の点検・分解に加え、輸入車のエンジンについても構造の違いを理解させる。	3通	156	5				○	○	○		
○		高度シャシ整備実習	基本点検やボデーコート、洗車等の新卒として就職した際に最初に与えられる仕事に近い内容からスタートし、お客様のお車を大切に扱う意識を養成する事から始める。以降は電子制御式のAT・CVT・EPS・HV用トランスアクスルを中心に実習。進級前までに、実際の現場で必要なスキルに加えて、国家試験に対応出来る知識を身に付ける。	3通	156	5				○	○	○		
○		応用電装品整備実習	電気回路の故障原因の断線、又は短絡点検を行う為に電気の基礎を再度、学習・確認し、直流・交流・半導体について、回路を製作しながら実験を行い理解を深める。自動車の電気回路について、車両を使用し点検・診断の作業手順を理解させる。また、コンパクトEV車を製作する過程を通して、電気自動車の制御方法について学習する。	3通	156	5				○	○	○		
○		高度故障探究実	工実際に実習車に故障を設定し、又は班毎に設定させ不具合原因を見つけ出すための手段を習得させる。各種診断機器を活用し、作業効率の良い手順に加え、五感を活用した診断方法を習得させる。加えて、HV車のバッテリーを取り外して全てのHVバッテリーモジュールの状態を測定・確認を行う。	3後	96	3				○	○	○		

○		検査作業実習	自動車の車検、検査作業の学習	2後	66	2				○	○	○		
○		自動車検査作業実習	道路運送車両の保安基準に照らして、自動車が基準に適合していることを確認するための検査方法を学習する。 検査の実施方法として、目視による方法、テスト・ハンマを使った方法、検査用機器を使った方法により検査の実習を行う。	3後	34	1				○	○	○		
○		指導員実習	ID研究(学科)にて取得を目指す「職業訓練指導員」も視野に入れ、連動した内容を行うとともに、指導者として求められる人間力として立ち振る舞いや話し方、プレゼン力、説明力についても磨いていく。 加えて後期にはリーダーシップやチーム運営について、各界の著名な人物を例にあげ全員で検討、討議していく。	3通	68	2				○	○	○		
○		技術コンクール指導実習	校内整備技術大会、及び整備振興会技術コンクールに向けて、4年生は3年生を指導して【TA制度】大会に挑む。外部診断機、サーキットテスタ、計測機器等を駆使して。計測、1年定期点検整備項目、学科の各パートの合計で得点を競い合う。	4前	34	1				○	○	○		
○		実務体験実習Ⅰ・Ⅱ	前期15日間(6月)、後期15日間(11月)に分け、各学生内定先にて体験実習を行う。 各社と打合せを行い、「点検実習」「故障探求」「総合診断」をバランス良く実作業の中で体験、指導して頂く。実施期間中は、週一回担当教員が、各社を巡回し、学生の実習状況を確認する。尚、学生は毎日実習レポートを作成し、指導担当者に提出するものとする。教員はそのレポートにて出席カウントを行う。	4前後	300	10				○	○	△	○	
○		点検整備実習	日常点検項目及び定期点検項目の点検内容に従って点検の実施方法を習得する。(記録簿、点検シート記載含む) 各種点検機器の正しい使い方の講義、実習を行う。関連法令、コンプライアンスの重要性、優先順位について講義を行う。受入点検、整備説明、アドバイスについて、講義、実習を行う。	4通	130	4				○	○	○		
○		エンジン故障診断実習	エンジンに関する故障診断を行い、故障探求の基本的な流れを講義する。 最新の外部診断機を使用法、サーキットテスタ、オシロスコープ等の計測機器との連携診断方法を講義、実習させる。 測定機器を使った故障診断についての講義、実習を行う。	4通	130	4				○	○	○		
○		シャシ故障診断実習	シャシに関する故障診断を行い、故障探求の基本的な流れを講義する。 最新の外部診断機を使用法、サーキットテスタ、オシロスコープ等の計測機器との連携診断方法を講義、実習させる。 自動車コンポーネントの単体分解組立を通して構造研究を行う。	4通	130	4				○	○	○		
○		電装品故障診断実習	実際に充電器の作成を行うことにより、図面作成から構造研究、性能実測等を行う。 電気自動車(コンバートEV)の分解組み付け、点検、故障探究を行う。 最終的には、電装品の故障診断を行い、点検修理のみならず、問診、作業説明の方法を学ぶ。	4通	130	4				○	○	○		

○		サービスマイスター 実習	整備知識、技術のみならず、昨今の整備業界に求められるスキルを醸成すべく、フォロー活動のノウハウ、質の高い問診のノウハウ、納車対応から売上管理までの知識を習得させる。 また、指導教育のノウハウを理解させることにより、それぞれのキャリアアップの一助とする。	4 後	68	1	○	△	○	○		
○		総合診断実習	総合診断(応接・接客・問診・診断・説明)を習得する	4 通	136	2	○	△	○	○		
○		損害保険募集人	損害保険募集人資格(基礎・自動車)取得のための授業	2 前	30	1	○		○	○	△	
○		キャリアデザイン	経済環境の急速な変化のもと、職業教育・キャリア教育の必要性和重要性がますます高まっている。本講座では、学生が充実したキャリアを形成していくと同時にビジネス能力の向上が図れる学びを提供する。	2 通	60	2	△	○	○	△	○	△
○		キャリア教育	中核的人材に必要なビジネススキル(中級)	3 通	68	2	△	○	○	△	○	△
○		キャリア教育	中核的人材に必要なビジネススキル(上級)	4 通	68	2	△	○	○	△	○	△
合計				68科目	4,544単位時間(149単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
149単位の取得		1学年の学期区分	2期
国土交通省の定める第一種養成施設の二級および一級の受験資格取得に必要な時		1学期の授業期間	17週
(留意事項)			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			